

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

シャープ株式会社 電子デバイス事業本部 福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市大門町旭1番地

(3) 業種

2814 集積回路製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成12(2000)年度を基準年度とし、平成23(2011)年度から平成26(2014)年度までの4年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成12年度	平成26年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度
エネルギー起源CO ₂	182,712	159,000 (13.0)	89,947 50.8	85,552 53.2	89,379 51.1	80,863 55.7	100.0
非エネルギー起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類	374,921	112,000 (70.1)	20,372 94.6	10,233 97.3	9,146 97.6	5,990 98.4	100.0
温室効果ガス実排出量総計	557,633	271,000 (51.4)	110,319 80.2	95,785 82.8	98,525 82.3	86,853 84.4	100.0
温室効果ガスみなし排出量							
実績に対する自己評価	使用量実績は、事業再編等の影響により、エネルギー起源CO ₂ 、フロン類とも大幅減となっています（排出抑制取組みは、計画通り推進）。 尚、電力のCO ₂ 排出量については、「温室効果ガス排出量計算表」記載の排出係数（平成23年度：0.555tCO ₂ /千kWh、平成24年度：0.657tCO ₂ /千kWh、平成25年度：0.738tCO ₂ /千kWh、平成26年度：0.719tCO ₂ /千kWh）を使用し算出しています。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：実質生産高(百万円)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成22年度	平成26年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度
エネルギー起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	0.3597	0.3455 -3.9	0.2548 29.2	0.1696 52.9	0.1115 69.0	0.0675 81.2	100.0
実績に対する自己評価	(省エネ法における目標値「5年度間で年平均1%以上の改善」を達成しています。)						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	エネルギー起源 CO2排出量の削減	平成26年度 エネルギー起源CO2排出量： 基準年度比 55.7%削減 (目標 13%削減)	工場稼働に見合った生産設備の効率使用、及び ファシリティ電力の最小化 他
2	PFC等排出量の削減	平成26年度 PFC等排出量： 基準年度比 98.4%削減 (目標 70%削減)	温暖化影響の小さいガスへの代替化継続、PFC 等ガス分解装置の稼働率向上 他
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	環境負荷低減活動の推進 ・ 廃棄物の排出量削減	—	生産薬品使用量の低減、排水処理使用薬品の低減によるスラッジの減量化 他
2	環境負荷低減活動の推進 ・ 化学物質の適正管理	—	使用化学物質の把握と新規化学物質の適切な導入審査実施 他
3	環境配慮型商品/ 高機能・高付加価値商品 の創出	—	グリーンデバイス等の開発と普及拡大 (デバイスの省電力化 等)
4	その他 ・ 社内教育、啓発の充実 ・ 社外コミュニケーション/ 社会貢献活動の推進	—	従業員への定期的な環境教育の実施、地域学校への学習協力の実施、地域清掃、植樹活動等ボランティア活動への参画 他

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。